

# わい化りんご樹に対する有機入り肥料の肥効特性

( 園試 環境部 )

## 1. 背景とわらい

近年、りんご園において有機入り肥料の使用例が増えて来ている。昭和60年度に県内のわい化りんご園地を対象として実施したアンケート調査結果によれば、有機入り肥料を使用している例は全体の25%に上っている。

しかし有機入り肥料は、その有機成分の種類や量などによって肥効が異なることが予想され、その施用に当たっては注意が必要と考えられる。そこで、これまでに行われた有機入り肥料に関する試験成績を取りまとめたので、指導上の参考に供する。

## 2. 技術内容

- 1) 有機入り肥料からの窒素の発現量は無機質肥料と比べて緩慢で少ない。
- 2) 有機入り肥料を秋冬期に施用した場合には翌春における窒素の発現量は少なく、葉中窒素含有率も春期施用に比べて低い。
- 3) 有機入り肥料の肥効は無機質肥料とほぼ同等であるが、有機入り肥料の施用による着色や果実内容の向上効果は判然としない。
- 4) 有機入り肥料の施用時期は春期、融雪直後が適当である。なお、秋期における窒素の発現量は少ないので、秋肥は省略しないで実施する。

## 3. 指導上の留意事項

- 1) 有機入り肥料によって補給される有機物は僅かであり、別途に有機物を施用する必要がある。
- 2) 土壌条件あるいは気象条件によって春期の肥効発現が遅れる園地では秋冬期施用とするが、その場合には1~2割程度多めに施す。

## 4. 参考文献・資料

- 1) 昭和54~60年度 岩手園試 「土壌肥料及び流通利用に関する試験成績」

## 5. 試験成績

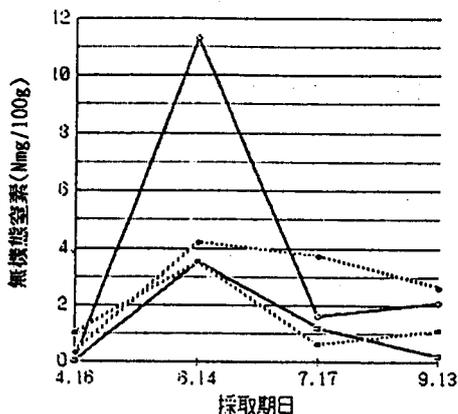


図1 土壌の無機態窒素の推移 (春期施用、有機774号)  
注. I層 (0~20cm)、II層 (20~40cm)

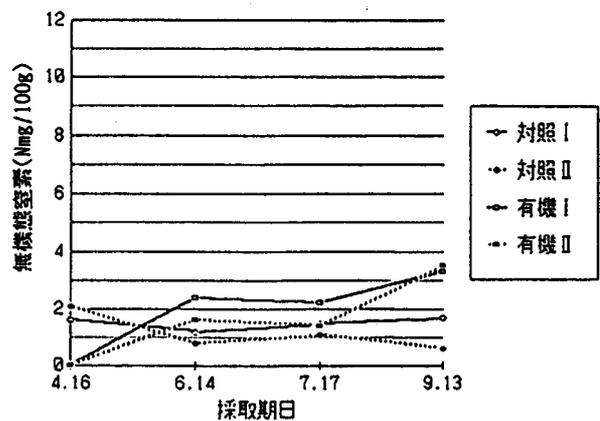


図2 土壌の無機態窒素の推移 (秋冬期施用、有機774号)

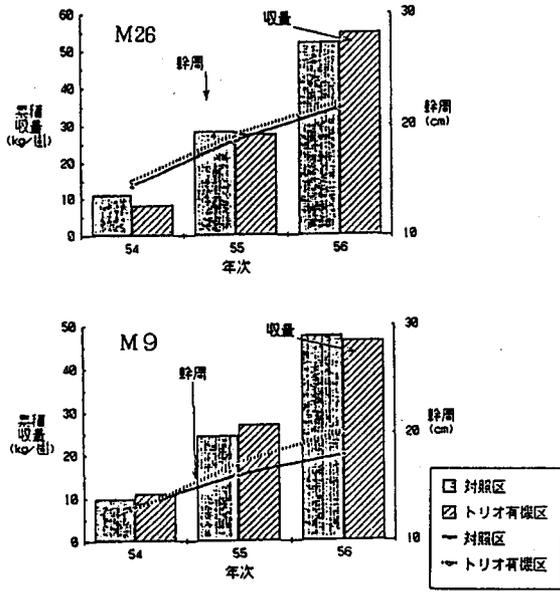


図3 有機入り肥料の幹周、累積収量に及ぼす影響 (トリオ有機)

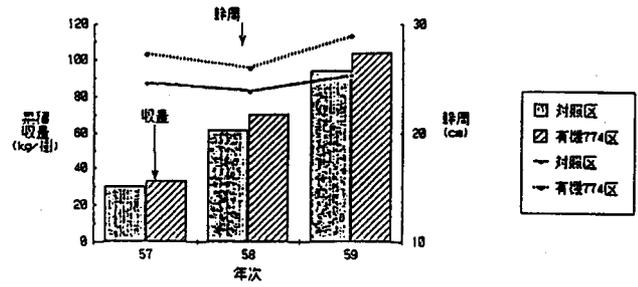


図4 有機入り肥料の幹周、累積収量に及ぼす影響 (有機774号)

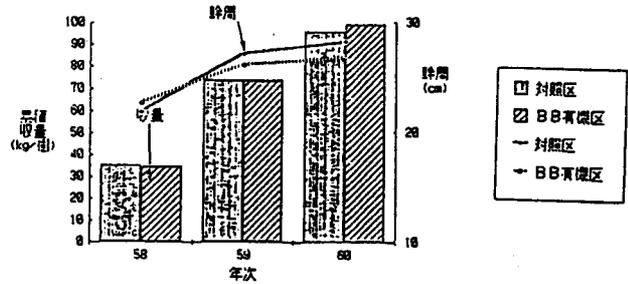


図5 有機入り肥料の幹周、累積収量に及ぼす影響 (BB有機)

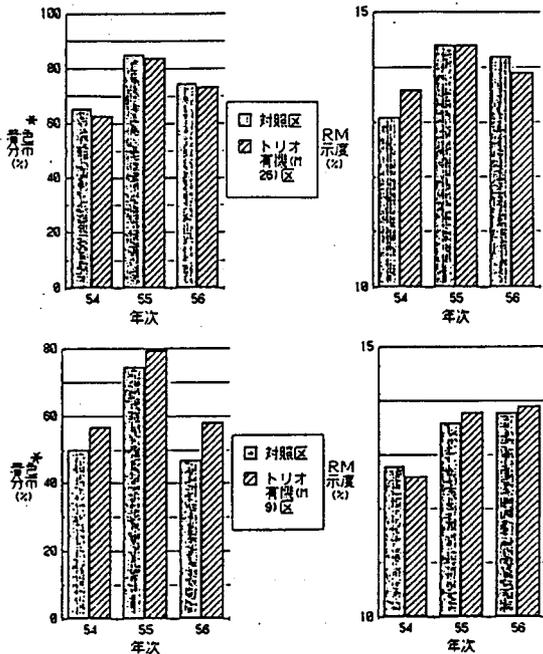


図8 有機入り肥料の着色、RM示度に及ぼす影響 (トリオ有機)

注. 1)\*: 着色分布は着色指数が4以上の割合を示す  
 2)着色指数: 1 (表面色の割合が10%未満)、2 (同10~40%)、  
 3 (同40~60%)、4 (同60~80%)、5 (同80%以上)

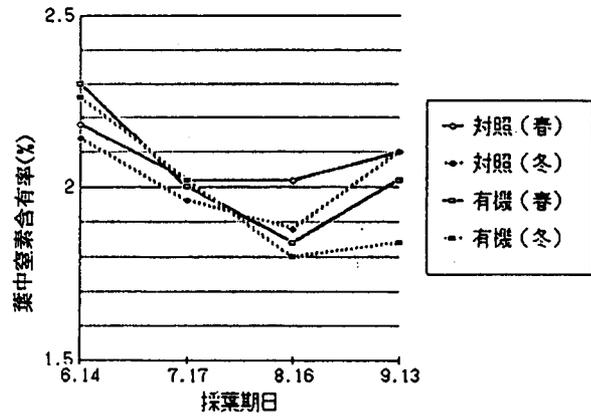


図11 有機入り肥料の施用時期と葉中窒素含有率の推移 (有機774号)